

研 修 会 開 催 報 告

神奈川県博物館協会平成27年度第6回研修会

平成28年2月20日(土) 於：小田原市民会館6階第6・7会議室 参加者109名

知っておきたい博物館の話

「博物館と観光—小田原・箱根 地域の魅力を活かして—」開催報告

人文科学部会幹事・小田原市郷土文化館 大貫 みあき

1. はじめに

神奈川県博物館協会では、加盟館園の職員の知識向上を図ることを目的に毎年研修会を複数回実施していますが、その内の1回は、一般にも公開し、参加を呼びかけています。

これは、博物館の活動について、一般の方にもっと知ってもらいたいと平成21年度から始めたもので、「聞いておきたい博物館の話」、「知っておきたい博物館の話」と銘打ち、毎回テーマを変えてシンポジウムや講演会を開催しており、今回は、「博物館と観光」をテーマとしました。

県内のみならず、各地域において多様な特色を持った博物館が活動を行っており、社会教育施設として、地域の課題や学校教育などに対応しながら様々な取り組みを行っています。観光地における博物館においては、また違った観点からも活動を行っているのではないかと考えたことから、東京オリンピックの開催を控え、観光を意識する時期に、観光地に立地する博物館の取り組みなどを紹介することで、博物館と観光について考える機会とすることを目的に開催しました。

本講演の全体概要としては、近年の文化観光における博物館について概観した後、県西部での代表的な観光地の博物館における活動について紹介しました。

2. 基調講演

明治大学教授 矢島國雄氏「文化観光という潮流—博物館と観光」

まずは、基調講演として、全日本博物館学会の会長でもある矢島氏に近年の博物館の動向などについて、今回のテーマである観光とも関連させながら講演いただきました。



矢島國雄氏

観光の歴史にはじまり、マスツーリズム（大衆観光）とカルチュラルツーリズム（文化観光）、観光学の登場などに話が及びましたが、最後の「博物館と観光を考える」という部分が特に今回のテーマと深く関わる部分でした。

近年、自分だけの発見や学びへの志向から、目的型の旅行が増加しており、文化観光の拠点であり核としての歴史博物館、グリーンツーリズム・ジオツーリズムの拠点であり核としての自然博物館というように、博物館のすべきこととして、それらを結びつける橋渡しの役割があるということでした。

また、博物館が学びの非常に重要な出発点となり、また、学んだことを整理するために再度博物館へ訪れるなど、学びの総括ともなる点について触れ、コレクション（モノ）とデータ（情報）のバンクである博物館がインフォメーションの役割を果たすことを挙げられました。

最後に、地域が潜在的に持っている資源を訪れた人が吸収して帰ることで、どこかで蓄積されていくことになるということや地元への経済効果も

含め、人が移動することによって大きな成果があるため、観光が世界各国の重要目標となっているが、博物館は営利を目的として活動しているのではない。隠れた資源を掘り起こし、みつめていく、つなげていくことが博物館の役割である。という点を示され、締めくくりとなりました。

3. 活動報告①

小田原城天守閣館長 諏訪間順氏「小田原城天守閣の耐震改修と展示リニューアル」

次に、小田原市の観光の中心である小田原城天守閣の活動について、講演時、工事期間中であった耐震改修と展示リニューアルの意図や内容を中心に館長の諏訪間氏にご紹介いただきました。

来館者の安全確保を第一に、耐震改修を行い、併せて来館者の利便性・満足度の向上を図るため、空調設備の整備・展示リニューアルなどを実施したとのことでした。

耐震改修により面積が狭くなったことで実物展示は減ったものの、歴史観光の拠点として小田原城を中心に小田原の歴史的魅力を発信することを基本的な考え方に据え、主たる対象を観光客とし、小田原城天守模型や摩利支天像などの貴重な実物資料の活用や映像なども用いて短時間でも分かりやすい展示を目指したとのことでした。また、具体的な「まち歩き」へと誘う展示を取入れ、情報提供やガイダンスとしての役割を果たすことも意図したとのことでした。



諏訪間順氏

4. 活動報告②

箱根ジオパーク推進協議会事務局 青山朋史氏「箱根火山の自然や歴史・文化を楽しく学べる箱根ジオパーク～ジオパークの視点で地域を再発見！」

次に、箱根ジオパーク推進協議会事務局の青山氏に箱根山を中心とした小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町、南足柄市で構成する箱根ジオパークの活動について、ジオパークや箱根ジオパークの説明、ジオパークにおける博物館の位置付け、ジオパークにおける観光振興の取組事例を中心にご紹介いただきました。

拠点施設となる博物館の活動については、地域の歴史や自然を学べるとなっていることやジオパークの情報を入手できる点、ジオツアーの拠点であることなどを挙げられ、箱根ジオミュージアムの取組みについてご紹介がありました。

観光振興の取組事例としては、ジオパークブランドの商品開発やジオパークを活用した商店でのセールスといった他都市の事例などについてご紹介がありました。

箱根ジオパークをとおして観光客には火山（大地）の恵みを体感するとともに「どうして？」の視点で観光し、地域を巡ってもらうこと、地域住民には地域の良いところを見つけ、自分の地域を好きになってもらうことを挙げられ、ジオパークで地域を再発見し、地域をつなぐ役割を果たすという点についても触れられました。



青山朋史氏

5. フリートーク

真鶴町立中川一政美術館の新井人志学芸員にもパネリストに加わっていただき、会場からの質問を交えてフリートークを行いました。

新井氏からは、ホームページを活用した周知の取組などについてご紹介がありました。会場からは、広域連携や所属の異なる者同士での連携をどのようにしているのかといった質問などがあり、小田原城天守閣展示リニューアルに際し、部署の異なる学芸員同士の連携があったことや神奈川県

西部の2市3町が連携する箱根ジオパークの取り組みなどについての紹介がありました。

6. おわりに

今回の研修会では、「博物館と観光」をテーマとし、加盟館園の関係者だけではなく、会場である小田原市民の皆さんを中心に一般の方の参加も多くありました。

矢島氏の講演では、改めて博物館の活動や役割について考える機会となり、活動報告では具体的な事例の紹介が参考となったのではないかと思います。

今後も、このような公開の研修会を開催し、加盟館園のみならず、一般の方にも博物館の活動を知ってもらうように努めることで、博物館に対する理解を深めていただく機会となれば幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、時間を割いていただいた講師の皆様をはじめ、本講演会開催にあたりご協力くださった皆様に感謝申し上げます。



会場の様子

(撮影 遠山元浩)